

# 親子で話そう！ 家族のきずな・我が家のルール

楽しい子育て全国キャンペーン

長野県  
PTA  
新聞

みんなで参加しよう！

## 三行詩コンクール

「普段はなかなか言えないことを伝えられた」「やっばりうちの家族っていいな」三行詩コンクールに作品を応募した方の声が届く。三行詩は短い言葉の中に家族への思いが表現されていて、読むたびにほのぼのとした情景が目に浮かぶ。家族で食卓を囲み、みんなの話に耳を傾ける。三行詩コンクールへの取組は家庭での会話とふれあいを育てる場でもある。

### 応募者の声

- 親が言ったことは、子ども心の中に残っているのだと分かりました。
- 三行詩を考えながら、家族で話し合う時間が取れて良かったです。
- 最近の子どもとの会話の中で一番印象に残っていることを書きました。
- それぞれ考えた作品を家族で発表し合い、楽しい時間を過ごせました。
- 一つの話から、思い出話に花が咲きました。
- 子どもに対する今の自分自身を見つめ直すきっかけとなりました。
- 言葉を選び、伝えたいことを凝縮させて表現するのは、とても難しいことだと思いました。

### 知ってますか？ 三行詩

三行詩とは…三行程度の短文詩の意味。必ずしも三行でなくてもよく、自由詩や俳句のような形態でも構わない。日常生活の中で心に残った言葉や「早稲早稲き朝やはん」といった我が家の生活習慣などを、親子で話し合い、一緒に取り組むことの大切さを短文に表現したもの。

### CONTENTS

- 長野県PTA研究大会塩尻市文化会館レザンホールにて行われました。
- 長野県PTA研究大会塩尻市文化会館レザンホールにて行われました。
- 日本PTA全国研究大会と日本PTA関東ブロック研究大会が開催されました。
- 東信・北信の学校を取材しました。特色のあるPTA活動を紹介します。

- 優良賞**
- 小谷 美希 王滝小学校 (五年)
  - 須澤 颯斗 徳高南小学校 (六年)
  - 松本 南菜 辰野西小学校 (六年)
  - 川口 将真 中野小学校 (六年)
  - 香掛 柃奈 戸倉上山田中学校 (三年)
  - 宮本 耕佑 戸倉上山田中学校 (三年)
  - 卷山 葉子 明科中学校 (三年)
  - 井原 愛望 鼎中学校 (三年)
  - 千種富士子・晃平 座光寺小学校 (保護者・六年)
  - 三鬼 福二 平谷小学校 (保護者)
  - 澤田由紀子 信濃小中学校 (保護者)
  - 湯本 一江 長丘小学校 (保護者)

- 優秀賞**
- 熊谷 拓斗 辰野西小学校 (三年)
  - 三原のぞみ 豊科南中学校 (三年)
- 長野県PTA連合会長賞**
- 母と私はガールズトーク
  - 父と兄はボーイズトーク
  - いつのまにかファミリートーク
- お父さんはおことごとわいけど  
いっしょにいるとなんだかたのしい**
- 高柳 武治 徳高西小学校 (保護者)

### 来年度の応募お待ちしております

**応募の方法**

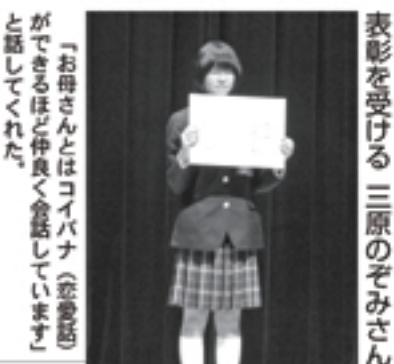
六月頃、応募用紙が配布されます(長野県PTA連合会のHPでも入手可能)

作品は在籍する学校PTAへ提出してください。

詳しくは長野県PTA連合会HPをご覧ください。

### 各審査員の講評より

- ふだん思っていることや、なかなか言えないことが伝わってくる作品が多かった。
- 家庭への「想い」の詰まった素晴らしい作品だった。
- 三行詩コンクールへの取組を通じて「家族のきずな」が強くなっていくのではないのでしょうか。活動の広がりが楽しみです。



千年に一度と言われた東日本大震災からすでに一年八カ月。未だに三十万人以上が避難生活を強いられる。何度か被災地を訪れたが、復興には程遠い厳しい現実の中で、人々が懸命に生きていく姿に毎回接した。

この春、宮城県南三陸町の中学三年生が修学旅行で千曲市の戸倉上山田中学校を訪れた。震災の直後に生徒会が義援金を集め、全校生徒で折った千羽鶴とともに届けたことがきっかけで縁ができた。交流会は心温まるものだった。家を流され、家族を失った生徒たちが明るく復興計画を紹介する姿に胸が熱くなった。

その際、遠藤未希さんについて話を聞いた。最後まで住民に防災無線で避難を呼びかけ続け、津波の犠牲となった未希さん。自分のことよりも人のことを考える優しい娘さんだったという。家に帰って、このことを改めて家族で話し合った。彼女の心への思いやりや社会に尽くす姿は、子どもにも深く残ったようだ。

多くの犠牲者のことを思うとき、この大震災を決して風化させてはならないと思う。今回の大震災が気づかせてくれた日本人の気高さや誇りを、若い世代に伝えてゆくの責任ではないだろうか。

(S・M)

**Disney RESORT**  
+夢がかなる場所+

# Tokyo Disney Resort Campus

## 学びの扉をひらこう!!

魔法の教室 検索

思いやりが学べる、東京ディズニーリゾート。の現役キャストによる小学校向け出張授業「魔法の教室」のお申し込みを、2013年4月から募集予定です。詳細は決まり次第webにてお知らせいたします。

www.tokyodisneyresort.co.jp/campus



# 第54回 長野県PTA研究大会 塩筑大会



## ぶどうの香り漂う地で豊かなくらしの時間を考える

10月28日塩筑市文化会館レザンホールにおいて、研究大会が開催された。大会テーマ「家庭が原点」～家庭の中でしっかり子どもと向き合おう～のもと、県内各地から1000名余の会員が参集した。山崎弘道会長・上條大地大会実行委員長のあいさつに続き、長野県教育委員会教育長の山口利幸氏、開催地塩筑市長の小口利幸氏が来賓の祝辞を述べ、開会した。

### 講演

## 「子どもの脳、親の脳に必要なこと」 勉強にハマる脳のつくり方



講師 篠原菊紀 先生

茅野市出身。諏訪東京理科大学、東京理科大学大任教授、応用健康科学、脳神経科学、脳や体の活動を研究している。テレビやラジオ番組で、脳実験や脳解剖、解説を行っている。(著書)「子どもが勉強にハマる脳のつくり方」「キレない子どもの育て方」など

寝ること、運動、人と関わり、心持が脳を鍛える。きちんと寝ることは脳に対して大切なこと。睡眠中に記憶の定着が行われる。運動やピアノなどの技能も、練習の後寝る

することによって定着する。運動をすると脳の新しい細胞が増える。頭と体を使うことで、その細胞が死なずにつながっていく。心を込めるということも大切である。家事も脳にはよい。特に面倒なことをすると脳は活性化

する。たとえばアイロンをかける場合でも、心を込め、根性を入れてすることで一段と脳のためになる。人との関わりでは会話

が大切。もちろん電話より対面の会話の方が脳は活動する。そして、相手の良いところを探し、嫌なことを思い出すより、良いことを思い出す方が脳トレになる。また、笑うことも大切。自分が笑うだけでなく、相手に笑ってもらうこと、笑っている顔を見るだけでも脳は活性化

努力を認められること、間違いないから学ぶことは、子どもの脳に必要なこと。努力したことを認めること、努力を認められたことで、一層努力をするようになり成績が伸びる。反対に、賢さを誉めた場合、難しいことへの挑戦をあきらめてしまう。一回試したら三回誉める。誉められることでやる気がわいてくる。

間違いないを見つければ脳波が大きくなる。この脳波の大きさが成績向上に強く影響する。努力する子は間違いないから学べるので成績が伸びる。できない方もよい。できない方が脳トレになる。人の脳の性質は、できなくてあがくことで力を伸ばす。簡単にできることではトレーニングにはならない。

口角を上げてニコニコする。そして、相手を理解しようとすることは、脳に良いことであるので、実践してほしい。

### 研究協議

## 「家庭が原点」 子どもと向き合うために

研究協議は、日々の家庭生活の中で、親子がどう向き合ったらよいかを題材に進められた。会場参加型で、コーディネーターの質問に対して、参加者全員が、事前に配られた色紙を上げて答えた。

してくるようになったなどの意見が出された。会場の父親からは「家は三世同居で、祖父母があいさつには厳しい。できる限り私からあいさつするよう心掛けています」などの声があった。

に風呂そうじと洗濯物をたたむ手伝いをさせている。自分の食器の片付けや布団敷きは、自分ですることがあたり前。「家ではお手伝いという枠がない。手の空いている人が自ら動いている」などの意見が出された。

会場の母親からは「核家族で共働きのため、子どもには家族の一員として、お手伝いを決めてさせている」などの声があった。

話の場として大切」などの意見が出された。会場の父親からは「上の子の小学校入学時に、テレビを置くのをやめた。テレビがないと静かです。時間が長く感じていいね」と子どもは言っている」などの声があった。

### コーディネーター

岡田 英恵氏 (県P前副会長)

### パネリスト

板花 史河氏 (県P理事)

清水 肇氏 (県P理事)

松澤 功氏 (県P理事)

藤ノ井 史中氏 (県P理事)

山崎 弘道氏 (県P会長)

### 質問 朝のあいさつ

「家庭内できちんとできていますか」「子どもからあいさつが返ってこない時、声をかけ続けるか」

パネリストからは「あいさつの中でも、ごちそうさまは簡単だ。ありがたみの気持ちが自然とこぼれ出す。また、大人が子どもに手本を示すことが大切」「朝、声をかけるのは私から。年齢が上がるにつれて、あいさつは難しくなる。こちらから笑顔で毎日声をかけていたなら、あいさつをしなかった子どもが返

「子どもに決まったお手伝いをさせているか」「お手伝いにお金を払ったことがあるか」

パネリストからは「お手伝いの内容ごとに金額を決めている。寝る前の米とぎは、子どもの日課となった」「子どもたち

「食事中はテレビを消した方がよいと思うか」「食事中はテレビを消しているか」

パネリストからは「子どもの年齢が上がるにつれ、家庭での時間配分が難しい。そのため、食事とテレビが一緒にある時間もあつた」「安心して視聴できる内容であれば、共通の話題を得るために、見ることもある。食事の時間は、家族団らんの会

### 大会宣言決議

一、私たちは、子どもの心身の成長の原点である家庭の重要性を学び、それぞれの家庭がしっかりと子どもと向き合うことができるよう、相互に支え合うPTA活動を展開します。  
一、いじめなど、人権を侵害することがなく、子どもたちが安全な環境の中で安心して、のびのびと生活できるよう、家庭・学校・地域が連携をさらに深めるためのPTA活動を推進します。  
一、子どもたちが自然や人を愛する豊かな心をはぐくみ、たくましく生き抜く力を身につけることができるよう、見守り、導き、子どもとともに成長するPTA活動を実践します。

平成二十四年十月二十八日  
第五十四回 長野県PTA研究大会  
塩筑大会

### 参加者の声

・「くり返し」やること、面倒くさいと思っても、させることが大事だとわかった。

・講演で聞いた、賢さよりも努力を認めるということを実践したい。

・子育てについて、肩の力を抜いていけばいいと感じた。

・「できないがあがくのがトレーニングになる」という言葉が、なるほどと思った。

・会場参加型が良かった。

僕たち! 私たち! がついています!

# 信州の牛乳を飲もう!

長野県生乳生産販売委員会  
信州 JA 全農長村  
長野県牛乳普及協会

毎年開催の料理コンクール受賞作品のレシピ等ご覧いただけます。 やっぱ信州の牛乳でしょ 検索



# 全国表彰

平成24年度の文部科学大臣表彰および日本PTA全国協議会会長表彰の表彰式が、11月22日、東京千代田区のホテルニューオータニで行われた。本県からは5校の単位PTAと4名の功労者が表彰の栄を受けた。

## 文部科学大臣表彰(団体)

### 木祖村立木祖小学校PTA

木曾川の源流があり「源流の里」といわれる木祖村は、特に水との関わりを大切にしている。木祖村教育委員会で企画する「すくすく倶楽部」にPTAも共催し、積極的に参加している。主に、土曜日の活動で、木曾川下り、カヌーやスキーなどのスポーツ活動、物作り体験等を行っている。

昨年、PTA教養委員会による小中合同PTA講演会では「食育」をテーマに家庭での食育の意識を高め、PTA子育て委員会では、教育委員会と共催の芸術鑑賞を実施した。また、PTA環境生活指導委員会は、地区児童会と協力して、資源回収等の地域行事を企画運営している。

### 東御市立東部中学校PTA

PTA人権同和教育部が中心となり、会員が地域の施設を訪問しての介護や自立訓練などの体験活動や、青少年指導員を招いての学習会等、地域の身近な素材に目を向け研修会を行っている。これらの研修内容を積極的に学年・学級PTAに情報発信することで、PTA会員の人権意識を

高めることにも役立っている。また、PTA教養部が主体となって行う講演会では、地域に根ざした活動をしている方を講師に招く。学校と地域の連携や地域ぐるみで子どもを育てていくことへの啓発に役立つばかりでなく、具体的な活動に繋がっている。

### 長野県飯田養護学校PTA

地域に開かれた特別支援学校を目指して、地域の飯伊PTA連合会や喬木四校PTA連絡会にも参加し、交流を行っている。飯伊PTA連合会内の会長や、喬木村内小中学校のPTA役員を招いての学校見学を行っている。また、文化祭を地域の方々に、学校の様子を知ってもらう機会として捉え、保護者全員が係になり、出店や駐車場・会場整備など「お

もてなし」することを、PTAの伝統的活動として行っている。さらには、PTA主催で児童生徒在籍地域の教育委員会、福祉関係等の方々を招いて、保護者との懇談会を実施し、悩みや要望を伝える機会としている。親と子が共に育つために、福祉関連の学習会、卒業生を招いての進路学習会、講演会等を行っている。

## 日本PTA全国協議会会長表彰(団体)

### 池田町立高瀬中学校PTA

毎年校内の活動だけでなく「大北PTA連合会研究協議会」への積極的な参加、安曇養護学校とのPTA交流、各種研究会参加などに取り組んでいる。4年ほど前からは「子どもを取りまく食の実態と課題を把握し、その改善に向けて取り組むPTA活動の実践」をテーマにあげ、実践発表を行うなどしてきた。数年前に、PTA会員と生徒対象にア

ンケートを実施し、生活習慣と食の実態をまとめ、保護者の啓発につなげた。翌年には「炊きたておいしいご飯」と称し、年に3回米飯を炊いて、給食時に食べるため、炊飯準備の支援を行った。また、食に関するPTA講演会の開催等、食を中心とする生活習慣の見直しや意識向上に取り組んだ。

### 須坂市立小山小学校PTA

「みんなで子どもたちのために学校に出入りしよう」を合言葉に、父親会員と教職員をメンバーに「おやじの会」の活動を行っている。父親の力・技術・資格を持ち寄って、父親だからこそできる作業に積極的に取り組んでいる。校庭芝生化に伴うスプリンクラー設置・教室のペンキ塗り・PTAコーラスへの参加・読み聞かせポ

ランティア「とちのみ」とタイアップしての劇に取り組み、楽しみながら積極的な活動を展開している。また、春には、校庭の芝生管理に関わる作業や砂場作り・シンボルツリー木の手入れ等の環境整備、秋には、資源回収を行っている。昨年には、資源回収の資金で、全教室2台ずつ扇風機を購入した。

## 日本PTA全国協議会会長表彰(個人)

- 荻原 公和 (上高井)
- 宮本 幸成 (飯水)
- 藤巻 秀卓 (大北)
- 湯澤 英喜 (上伊那)



# 第60回 日本PTA全国研究大会

## ～京都大会～



八月二十四日・二十五日、夏の京都で開催された日本PTA全国研究大会に参加してきた。全国より約八千二百名が集い、長野県PTA連合会からは四十五名が参加した。初日はテーマごとに各会場で分科会が行われ、二日目は国立京都国際会館とグランドプリンスホテル京都において、真

スホテル京都において、開会式・大会宣言・記念講演などが行われた。私が参加した第四分科会では、研究課題「姿の見えない伝達の関わり」として、「教育をみつめる」というテーマに基づき、全員の参加型研修を行った。パソコンや携帯を使ったネット上のいじめから子どもを守るには、まず親が家庭でのルールを一緒に決め、それを子どもに守らせる。そして、日頃から子どもの様子を気に掛けてあげることが大切で、そのためには、共同注意(ジョイント・アテンション)の発想がよいということを学んだ。

共同注意とは、コミュニケーションの手法の一つで、対面して話すのではなく隣に座り、目標に対してお互いが寄り添い話し合う方法のことである。これは親子関係だけでなく、PTAや会社でも有効な方法だということも、長野の皆さんにもぜひ伝えようと思った。

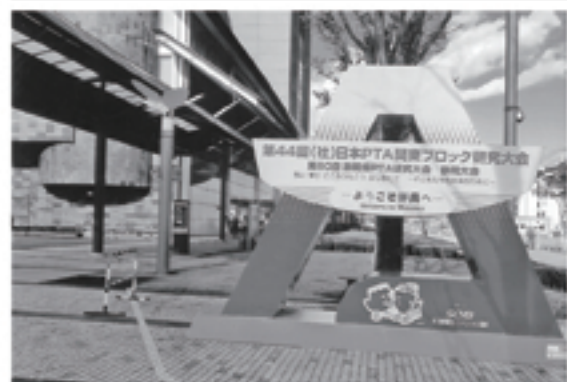
全体会では、加藤登紀子氏による「スマイル・レポリューション」と題した記念講演が行われ、会場の皆がライブと講演に聞き入り、加藤氏は、東日本大震災の被災地を訪れた時の思いや、震災で大変な思いをしたはずの東北の方たちの優しさに触れたことなどを語り、孤児になった子どもの日記をもとにした歌を歌った。改めて、震災の悲惨さと東北の方たちの人間力の凄さを感じた講演であった。

今大会への参加は、すぐにも実践できることが多く、とても勉強になった。今後役に立ていきたい。(M・N)

十月十九日・二十日、第四十四回日本PTA関東ブロック研究大会が静岡県で行われた。「集い学び、こころつながろう」の未来のために」のテーマのもと、約二千名が集まった。長野県PTA連合会からの参加者は、六十一名であった。この静岡大会は、新しい分科会として「防災対策」「おやじの会サミット」が設けられた。「防災対策」では「災害時における的確な判断と行動する力を養おう」というテーマで、静岡県が運営する地震防災啓発施設において、防災体験や情報交換が行われた。おやじの会サミットでは、静岡県出身の戦場カメラマン渡辺陽一氏を講師に迎え、「世界からのメッセージ」と愛の絆」の記念講演が行われた。戦場を体験してきたジャーナリストとしての視点から、戦争の悲惨さがリアルに伝わってきた。戦争がなくなるために、世界中の子どもたちの今の状況を憂っているのだと語った渡辺氏の話からは、ひ

とりでも多くの子どもたちを救いたい気持ちが伝わってきた。本大会のテーマ「心繋げる」は、子どもたちのコミュニケーション能力を育成していくために、保護者と子どもたち、さらにはPTA会員同士にとっても、大切なキーワードだと感じた。(Y・H)

## 第44回 日本PTA関東ブロック研究大会 ～静岡大会～



の未来のために」のテーマのもと、約二千名が集まった。長野県PTA連合会からの参加者は、六十一名であった。この静岡大会は、新しい分科会として「防災対策」「おやじの会サミット」が設けられた。「防災対策」では「災害時における的確な判断と行動する力を養おう」というテーマで、静岡県が運営する地震防災啓発施設において、防災体験や情報交換が行われた。おやじの会サミットでは、静岡県出身の戦場カメラマン渡辺陽一氏を講師に迎え、「世界からのメッセージ」と愛の絆」の記念講演が行われた。戦場を体験してきたジャーナリストとしての視点から、戦争の悲惨さがリアルに伝わってきた。戦争がなくなるために、世界中の子どもたちの今の状況を憂っているのだと語った渡辺氏の話からは、ひ



大切なお子さまのための保険です

# PTA小・中学生総合補償制度



**ケガをした** 通院1日目から補償  
**ケガをさせた** 友達に大ケガをさせてしまった  
**病気で入院した** 日帰り入院から補償※H7ラのみ

- 24時間いつでもどこでも補償します
  - 個別加入に比べて保険料は約40%割安です。(注)
  - 保険料は年間3,000円からのパターンをご用意しております
- (注)上記の割引率(約40%)は、この制度の被保険者数と保険金のお支払の状況によっては、今後変更となる場合があります。

長野県PTA連合会が  
平成10年より導入している制度です。  
詳しい補償内容については、  
学校配布のパンフレットをご覧ください。

引受保険会社: 共栄火災海上保険株式会社 お問い合わせ: 小中学生総合補償制度担当係  
電話番: 026(234)2180



# 「五加の里」と共に



千曲市

## 五加小学校

五加小学校は、冠着山・鏡台山をはじめとする山々に囲まれ、西には千曲川が流れる千曲市のほぼ中央に位置している。学校目標「よく考える子ども・たくましい子ども・心の美しい子ども」のもと、来年度創立140年を迎える学舎に373名の児童が通う。



**お父さんも頑張る**  
五加小PTAの役員は、お父さんたちがほとんどの専門部で、部長・副部長を引き受けている。また、部長・副部長は、四支部ある育成会の役員も、それぞれ兼任している。役員を兼任しなければ



**お父さんも頑張る資源回収**  
資源回収もお父さんたちの活躍の場である。各地区の役員が中心となって回収し、学校に集めて分別する。ビンやビンケースなど、お父さんたちがトラックに積んで、地元

**五加キッズ チャレンジ宣言**  
PTA子育て支援委員会が企画しているものがある。毎回、取り組むテーマを決め、アンケート形式で答えてもらうというものである。  
・ノーノメディアデー  
・早寝・早起き・朝ごはん・元気なあいさつ運動  
・レッツチャレンジ(お手伝い)  
今年度は、この三項目で行われた。各家庭で負担にならない程度で実施している。ほんの少しの心掛けで

**五つの村が合併して五加となり、小学校も五加と名付けられた。現在では「五加」の名称を残すのも小学校を含めてわずかである。**  
取材を終え、昇降口を出ると五加太鼓の音が体育館から響いていた。二十数年前、地域の方々の後世に残したいという想いから始まった五加太鼓の活動。これからは子どもたちによって受け継がれていくのだろう。



受け継がれる「五加太鼓」



単位PTA訪問 No.75

# 共に創る学校に



飯山市

## 城北中学校

長野県北部に位置する城北中学校は、飯山市立中学校の再編成に伴い、平成22年に開校し、今年で3年目を迎える。学校目標「夢を語ろう 熱い夢を」「今鍛えよう 強い精神」「今深めよう 固い絆」を掲げ、自然豊かで静かな高台に生徒298名の学舎がある。



**トラクターでの土おこし**  
ネットや携帯電話の安全な活用には、親の意識付けも大切というところで、生徒だけでなく、保護者も一緒に講演を聞いた。この防犯教室は、毎年行われているもので、今後も大切に

**みんなで理解し合う**  
PTA独自で親子向けに、学習に関する実態や日頃の学習への意識や取組への実態を、保護者・学校・生徒同士みんなで理解し合うことを目的としている。結果は、家庭に配布されるとともに文

**冬の準備「冬囲い」**  
有数のブナ原生林を楽しむながら、学生ごとに様々なコースを歩くという。晴れた日には、日本海も眺めることが出来るそうだ。  
取材の中で、これからの子供たちのために、新しいPTAを作っていくこと、皆が一丸となっていくという気持ちが伝わってきた。

**力仕事が多い PTA環境整備作業**  
年に三回、学年ごとにPTA環境整備作業が行われる。力仕事が多い作業のため、お父さんたちの出席率は高い。五月には二年生、九月には一年生の保護者が作業を行う。お母さんたちは、側溝の清掃や校地内の草取り、お父さんたちは、広い敷地内のため、ビーバーを使つての草刈り、花壇整備のためのトラクターでの土おこしを行う。  
そして十一月には、三年生の保護者による冬に向けての作業が行われる。

まずは「冬囲い」。校舎を雪から守るため、一階窓枠に板をはめ込むもの。あわせて雪対策として、グラウンドの周りを囲つてあるフェンスのネットを取り外す。地元出身の保護者が多く、冬に向けての準備は、早朝約一時間ほど、集中しての作業が手際よく行われていく。

**自分の身をしっかりと守ろう**  
PTAの補導部が中心となり、年に二回の防犯教室が行われている。六月は、保護者が講師となり、生徒・保護者が自分で自分の身を守る方法の体験を通して「護身術」を共に学ぶ。また、十一月には専門家を講師に招き、インターネットや携帯電話の危険性について講演会を開いた。



化祭で発表される。これは、親子で話し合い、考える時間を持つきっかけになると好評である。  
訪問した際、ちょうどバスから降りる生徒たちの声が聞こえてきた。学校行事である信越トレイルのトレッキングから帰校である。日本の有数のブナ原生林を楽しむながら、学生ごとに様々なコースを歩くという。晴れた日には、日本海も眺めることが出来るそうだ。

### 編集後記

「おい、六!」「へい、何かご用で?」「用じゃないが、あまりいい天気だからな」「へえ、旦那と二人でどこかに昼寝なんて」「おいおい、まだ朝の内だぞ」  
私が小学校五年生のとき、学級会で演じた自作落語の一節です。自作とはいえ、小学生が考える程度の簡単なものです。四十年前の前のことですが、この一節しか覚えていません。勉強もろくにしない息子の、落語の練習をさせているのですから親はさぞかし心配だったと思います。  
当時、私が繰り返し読んでいた本が「古典落語(興津要編)でした。おしゃべりな私にとって落語は、あこがれでした。「言葉を楽しむ」ことに目覚めた一瞬でした。  
今の自分の一瞬と落語を演じていた小学生の自分の一瞬とは、どこかで繋がっています。これから先も、このような幾つもの一瞬を繋ぎ合わせるから、私は「言葉」と関わって生きていくのだと思っています。(A・W)

- ◇編集委員
  - ◎赤羽 聡(高山中長)
  - ◎和田 敦(川田小理)
  - 伊東 貴世(後町小P)
  - 柳澤 真美(櫻ヶ岡中P)
  - 木下まなみ(瀬花中P)
  - 田中富貴子(城山小P)
  - 赤塩 香(安茂里小P)
  - 岡 富志子(瀬花小P)
- ◇広報委員
  - ◎高下 繁明(更地)
  - ◎中澤 守(上高井)
  - 林 陽子(飯伊)
  - 胡桃沢公司(木 曾)
  - 赤羽 聡(上高井)
  - 唐木 秀樹(上伊那)
  - 原田 千万(飯 水)
  - 木内 京子(長野市)

